〔研究所記事〕

北京自然博物館主催『人の由来』展

前後5年間にわたる資料収集と，その一部〝日本人の由来〟への当研究所の協力との中ですべての準備を完了して，同展覧はいよいよ本年8月9日開幕のはこびとなった．

その内容は次の通り6部から構成されている．

1．ヒトは動物の一種
2．ヒトは特殊な動物
3．特殊な動物としてのヒトの由来
4．現代人の由来
5．黄色人種の由来
　i 中国人の由来
　ii 日本人の由来
6．個体としての人の由来

『人之由来』展正面

〝日本人の由来〟コーナー

この展覧には，アメリカ・スミソニアン自然史博物館，ニューヨーク自然史博物館，大英博物館自然史部，フランス国立自然史博物館，中国柳州白蓮洞洞穴科学博物館，雲南元謀人陳列館，内蒙古博物館など内外50に及ぶ研究機関から資料，展示品が提供された．

特に日本別府大学アジア歴史文化研究所から〝日本人の由来〟のすべての展示品とパネル資料が提供され，アメリカカロリーナ生物標本KKから多くの人体および古人類化石模型が提供されて，展覧に一段と光彩をそえた（以上，同展パンフレットより）．

当研究所が参加した〝日本人の由来〟の構成は次の通り．

1．日本列島とアジア大陸の古交通についての裴文中理論
2．更新世における古動物の日中間移動
3．日本の古人類

提供資料は，古人類化石模型13，石器・骨角器・土器等82，古動物復元図7，写真26，その他計217点．

この展示のために、各種資料・標本等を提供され，また適切な助言を賜った国内各種研究機関および個人は次の通りで，ここに心から謝意を表したい．（敬称略）

東京大学名誉教授鈴木尚，国立科学博物館（佐倉朔），大阪市立自然史博物館（那須孝悌），野尻湖博物館（中村由克），長崎大学医学部（内藤芳篤），鹿児島大学歯学部（小片丘彦），新潟大学医学部（熊木克治），野尻湖発掘調査団（酒井潤一），神戸市教育研究所，沖縄県教育委員会，佐賀県多久市教育委員会，大分県本匠村教育委員会

『人の由来』展の内容についての問題点

同展は本年8月9日開幕を予定していたが，その直前になって関係者の意見相異を理由に急拠延期になった．これはあくまでも当事者間の問題であるが，展覧の主旨に賛同し，一部協力したものとして事態を看過しえず，またその論点には人類の問題に関連して重要な点を含んでいると考えられるので，その経緯を簡略記しておきたい．

筆者は8月9日開幕延期の理由について博物館側の説明を聞いた．また中国の新聞〝光明日報〟は8月27日付一面で，その問題点について詳しく報道した．両者の内容はほぼ一致しているのでその概要を記して参考に供したい．

北京科学技術研究院院長李延寿，副院長劉暁桂は，展覧の内容について次の三点の修正を要請したが，同展の設計者および若干の専門家の受入れるところとならなかった．

1．サルからヒトへの転化過程には，エンゲルスの〝労働が人間を創造した〟という語句を記すべきである．

2．〝中石器時代〟というのは周国興個人の観点で，そのことを図版上で説明するか出典を明示すべきである．

3．両性が抱擁した裸体写真は取り除くべきである．

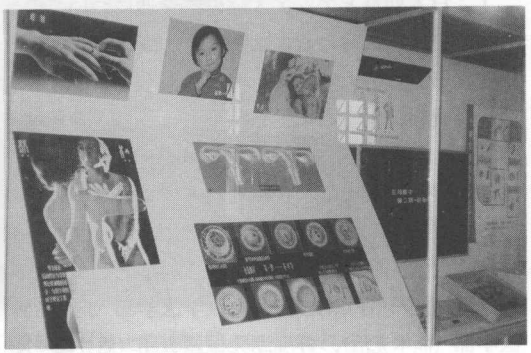
李，劉両氏の説明するところでは，自然博物館は科学の成果を普及するという性格をもつもので，その展示内容は現行教科書と一致させて，混乱をさけなければならない．挙げられた1，2の点はそのような観点にもとずくものである．また裸体写真の撤去を求めたのは，その社会的影響を配慮したからで，展示で性教育をすすめる場合は，性知識教育を心掛けるべきで，性行為教育であってはならない．この写真はまさに性行為に属するというのである．

これに対して，自然博物館（館長周明鎮，副館長・本展覧主設計者周国興）は，次のように反論する．

社会主義を宣伝するには，その精神実質に注目すべきでマルクス・エンゲルスの語録を記すかどうかではない．サルからヒトへの転化にあたっての労働の役割については，必ずしも語録の形式はとらなかったが，展示の中で充分に具体化されている．もし語録を必ず記さねばならないというならば，その断片ではなく，必ずその全体を引用すべきであろう．エンゲルスは「ある意味では，労働が人間そのものをも創造したのだと言わなければならない．」といっているのであって，この観点を述べるときには，労働の作用を抹殺しないことが必要であるばかりでなく，労働の通俗化をさけることもまた必要なのである．

いわゆる〝中石器時代〟とは，1892年に考古学者によってはじめて提唱されたもので，論争はあったものの，すでにヨーロッパの多くの研究者に受け入れられ，中国の歴史教科書や歴史図集にもこの種の考え方はみられるものである．

例の写真についていえば，これはたいへんうまく作られたもので，周国興氏によれば，この写真は2枚の原板を合成した，むしろ芸術的なものであって性行為の写真ではない．これが社会的によくない効果をもたらすはずがないという．



〝個体としての人の由来〟の一部

周明鎮氏はさらに次のように指摘した．〝中石器時代〟の問題は完全に一つの学術問題であって，上部機関がこんなことまで管理しなければならないならば，しなければならないことがもっともっと増えてくるだろうと．

同展は本日現在いまだ開幕されていない．

(1988年9月10日，二宮記)

『人の由来』展　正式開幕

たびたび延期になっていた『人の由来』展が，10月8日北京自然博物館で正式に開幕した．同展主設計者周国光同博物館副館長からの連絡，〝人民日報〟〝光明日報〟の報道によれば，この2ケ月にわたって，北京科学技術研究院と博物館との間で数回の意見交換の末，問題となった三点について合意に達して，ようやく開幕のはこびになった．

問題の三点については，次のような措置がとられた．

1) 〝サルからヒトへの転化〟を示す展示部分に，次の説明を加える．「初級形態の人の労働が，サルからヒトへの転化過程に無視することのできない推進作用をもたらした」，「労働が人を創造した」という語句はあえて表示しない．

2) 〝中石器時代〟の問題については原案通りとする．

3) 男女の裸体写真は，フランス国立自然博物館の提供にかかるものだが，これをイギリス大英博物館提供の「性交模型写真」に代える．

以上の〝修正〟によって同展は開幕されることになったが，博物館当事者は，「我々には基本上何ら修正するところはなかった」という認識をもっているようである．

開幕をめぐっておこった今回の事態は，〝不幸なこと〟であったが，〝性〟をタブー視する封建的伝統，またマルクス・レーニン主義の原典を絶対とする〝新伝統〟をめぐっての論争という意味で，大きな反響をひきおこしたものと考えられる．

ともかく，展覧会は開幕された．開幕後，平日は5000人，休日には9000人におよび参観者があるという．

(1988年10月15日，二宮記)